

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山陽女子短期大学
設置者名	学校法人山陽女学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
山陽女子短期大学	人間生活学科		14		95	123	7	
	食物栄養学科				95	123	7	
	臨床検査学科				89	103	10	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>ホームページに掲載している。下記にHP URLを示す。 <実務家教員の授業一覧表> 以下を統合したシラバスを掲載している。 ・人間生活学科専門科目（人間生活学科・食物栄養学科共通科目含む） ・食物栄養学科専門科目（人間生活学科・食物栄養学科共通科目含む）、学外実習 ・臨床検査学科専門科目、学外実習 ・教養科目（3学科共通科目） http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumukakyoin_jyugyou2019.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	該当なし
(困難である理由)	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山陽女子短期大学
設置者名	学校法人山陽女学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学HPにて公表（平成30年度事業報告書：1.法人の概要（2）役員・教職員の状況）
http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/financial_h30.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤 國本 佳宏	北辰映電株式会社 代表取締役	令和1年7月5日 ～ 令和3年7月5日	客観的立場から学校運営に対し、学識経験者としての意見を述べる。
非常勤 関口 善孝	JA 広島総合病院 名誉院長	令和1年7月5日 ～ 令和3年7月5日	客観的立場から学校運営に対し、学識経験者としての意見を述べる。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山陽女子短期大学
設置者名	学校法人山陽女学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

シラバス記載のガイドラインをF D S D研修会で説明するとともに、シラバス作成要領(ファイル)を学内メールで教員に配布している。全授業のシラバスを印刷し、シラバスチェック委員会で、記載ガイドラインに沿った内容になっているか点検している。授業担当者が必要な修正をしている。(公表は4月2日)

<シラバス記載事項>

- ・授業概要：授業の目的や内容を記載している。
- ・D Pに基づいて重点的に身につける能力を記載している。
- ・授業の方法：科目名の欄に、講義・演習・実験・実習の別を記載している。
- ・授業の内容：授業計画表に授業回数分のテーマとその内容を具体的に記載している。
- ・授業の到達目標：D Pと関連した授業の到達目標(箇条書き)を記載している。
- ・成績評価の方法や基準：評価対象別に評価割合を%で明示している。
- ・その他の事項
使用するテキスト、参考図書
事前学修、事後学修の内容を具体的に記載している。
備考欄に、実務家教員の授業の場合、実務家教員による授業である旨を記載している。また、注意事項や参考になる情報を記載している。

<p>授業計画書の公表 方法</p>	<p>『山陽女子短期大学授業計画作成ガイドライン』</p> <p><シラバス作成要領> 常勤用 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2019_joukin.pdf 非常勤用 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2019_hi_joukin.pdf</p> <p><実務家教員一覧および担当授業> http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumukakyoin_ichiran2019new.pdf</p> <p><実務経験のある教員等による授業科目の一覧表> http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumukakyoin_jyugyou2019.pdf</p> <p><実務経験のある教員等による授業科目のシラバス)> 備考欄に実務家教員としての授業である旨を記載している。 教養科目 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumukakyoin_culturalsubject_syllabus2019.pdf</p> <p>人間生活学科 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumuka%20kyoin_manlife_syllabus2019.pdf</p> <p>食物栄養学科 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumuka%20kyoin_foodsubject_syllabus2019.pdf</p> <p>臨床検査学科 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/jitsumuka%20kyoin_clinical_syllabus2019.pdf</p>
------------------------	---

<実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）>

備考欄に実務家教員としての授業である旨を記載している。

人間生活学科

医療事務情報コース

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_medical.pdf

オフィス情報コース

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_infomedia.pdf

人間心理コース

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_psychology.pdf

食物栄養学科

栄養管理コース

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_nourishment.pdf

栄養調理コース

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_cooking.pdf

食品開発コース

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_foodbusiness.pdf

臨床検査学科

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/syllabus2018_clinical.pdf

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修成果の査定方法（アセスメント・ポリシー）

大学（機関レベル）、学科・コース（教育課程レベル）で作成し、DPに基づいて学修成果を適正に評価することを明示している。

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/assessmentpolicy20190326.pdf

DPと学修成果の関係

科目のDPとの関連と到達目標を、シラバスに記載している。

学修成果の評価方法と単位認定（学生便覧：IV.(4).② 成績の評価と単位認定）

科目の成績評価は次のように実施している。

小テストや提出物の取組み状況から平常の学修意欲を把握するようにし、平常点として成績評価に加えている。平常点、中間試験、期末試験等（シラバスに割合を記載）で科目の学修成果を評価している。また人間生活学科の特論発表や食物栄養学科学外実習報告は統合的な学修成果として評価している。

シラバスに、成績評価方法とその細分の割合を記載している。評価は100点満点で、60点以上が合格としている。成績評価に至る査定項目の評価は記録、保存している。厳正な評価方法で到達度を測定し単位を与えている。履修した科目の単位を成績査定会議（教授会）で審査、単位を認定している。

学修意欲の把握

チューターは指導学生の履修状況・出席情報を教員ポータルサイトで確認している。次の学修に関するアンケートを参考として、チューター面談で指導学生の学修指導をしている。

①学生による授業評価アンケート ②学修行動の把握アンケート ③学修成果の自己評価アンケート（学修前・学修後） ④短大生調査（私立短期大学協会）
学期ごとに配布する「学生のGPA記録と学科学生のGPA分布図」で、学修成果と学修意欲についてチューター面談を実施している。面談時期は追再試手続き期間と履修登録期間に成績指導と履修指導を行っている。

修得単位認定

卒業に必要な単位をすべて修得したことを成績査定会議（教授会）で審査し、修得単位を認定している。

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標としてG P Aを算定している。</p> <p>成績評価は、合格：S(100～90点)、A(89～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、不合格：D(59点以下)とし、成績評価からG P A値に換算している。S：GPA 4、A：GPA 3、B：GPA 2、C：GPA 1、D：GPA 0 として、履修登録した科目の単位数の合計で割ったG P A(1単位あたりの平均得点)を算出する。次の式によって算出し、少数点第3位以下を切り捨てて少数点第2位まで表記する。本学以外で修得した単位についてはG P Aの計算には含めない。</p> $G P A = (S \text{の単位数の合計}) \times 4 + (A \text{の単位数の合計}) \times 3 + (B \text{の単位数の合計}) \times 2 + (C \text{の単位数の合計}) / (\text{履修登録した科目の単位数の合計})$ <p>成績の分布状況の把握と、適切な実施</p> <p>各学生の学期・累積G P A表、学期別G P A分布図(学科)、累積G P A分布図(学科)を作成、チューターに配布して成績の分布状況の把握に用いている。チューターは、学修成果と学修意欲について年2回の追再試験期間に面談を実施している。成績中位～下位の学生に追再試験が多く、下位(1/4以下)の場合の警告等も行うことが可能である。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>『G P Aの算定について』</p> <p>・成績の評価と単位認定及びG P A算定方法は、学生便覧：IV学生生活と諸手続に掲載している。</p> <p>http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/gakuseibinran2019-1_Nintei.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取り組みの概要)</p> <p>卒業の認定に関する基本的な方針(ディプロマ・ポリシー、D P)の策定</p> <p>本学の教育理念に基づき、また、社会におけるニーズを踏まえ、学科(コース)卒業後の社会での立場(職業)に関連した目標を示している。</p> <p>D Pの実施について</p> <p>学生が身に付けるべき資質・能力の目標を示し、教育、学修成果を評価している。学科のD Pに基づいて、1.知識と理解、2.技能、3.態度と志向性、4.統合的な学習経験と創造的思考力に分け、具体的に明示している。</p> <p>科目レベルでは、上述の1～4について、学科・コースに基づいた到達目標を定め、その到達度に対して厳正な成績評価をしている。平常点(小テスト、提出物等)、中間試験、期末試験等の成績の割合を定め、それらの総合点が60点以上を合格とし、成績査定会議(教授会)を経て単位を授与している。</p> <p>卒業に必要な単位をすべて修得したことを卒業認定会議(教授会)で審査し、卒業を認定、学位(短期大学士)を授与している。</p>	

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>ホームページで公表している。 『山陽女子短期大学ディプロマ・ポリシー』</p> <p>人間生活学科 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#departmentOfHumanLife1</p> <p>食物栄養学科 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#foodAndNutritionDiscipline1</p> <p>臨床検査学科 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#clinicalExaminationDepartment1</p>
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山陽女子短期大学
設置者名	学校法人山陽女学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学HPにて公表。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/financial_h30.pdf
収支計算書又は損益計算書	本学HPにて公表。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/financial_h30.pdf
財産目録	本学HPにて公表。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/financial_h30.pdf
事業報告書	本学HPにて公表。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/financial_h30.pdf
監事による監査報告(書)	本学HPにて公表。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/financial_h30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法: HP URL:
中長期計画(名称: 山陽女子短期大学中長期目標計画 対象年度: 2019~2021年度)
公表方法: HPで公開している。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/mid-termplan_2019.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: HPに公表している。 http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/evaluation2018.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: HPに公表している。 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/jaca/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 山陽女子短期大学
教育研究上の目的（公表方法：HP に公表している。） 建学の精神・教育理念 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/about/index.html#schoolConstructionSpirit
教育研究上の目的等 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html
教育研究上の目的（公表方法：HP に公表している。） 建学の精神・教育理念 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/about/index.html#schoolConstructionSpirit 教育研究上の目的等 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html
（概要）本学教育理念は「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、山陽女学園の伝統の精神に基づいて大学教育を行い、教養と専門性を兼ね備え、地域に貢献する女性の育成を教育理念とする。」である。この教育理念を具現化するために、以下の 4 点を全学的教育目的としている。 （1）教養教育及び健康・医療を核とした専門基礎教育の徹底 （2）実践に即した豊富な実習を中心とした教育 （3）資格を活かして、地域に貢献できる人材の養成 （4）地域における生涯学習の拠点化と地域連携の推進
卒業の認定に関する方針（公表方法：HP に公表している。） 大学、学科別に卒業の認定に関する方針（DP）を具体的に定め、実践している。 大学 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html
人間生活学科 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#departmentOfHumanLife1
食物栄養学科 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#foodAndNutritionDiscipline1
臨床検査学科 http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#clinicalExaminationDepartment1
（概要）ディプロマ・ポリシー（DP） 大学： 卒業に必要な単位を修得し、次に掲げる「学習の到達目標」に達した学生に短期大学士の学位を授与している。具体的な到達目標は 4 項目（1. 知識と理解 2. 技能 3. 態度と志向性 4. 統合的な学習経験と創造的思考力）に分けて示している。 人間生活学科 医療事務情報コース，オフィス情報コース，人間心理コース 生活する上で必要な専門知識や技能を身につけ、所定の単位を修得した学生に「短期大学士（生活学）」を授与する。コース別にそれぞれ具体的な到達目標を 4 項目（1. 知識と

理解 2. 技能 3. 態度と志向性 4. 統合的な学習経験と創造的思考力) に分けて示している。

食物栄養学科 栄養管理コース, 栄養調理コース, 食品開発コース

食に関する専門知識と幅広い教養を身につけ、所定の単位を修得した学生に「短期大学士(食物学)を授与する。学科全体としては、食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルな視点から捉える必要性を理解していることを目標としている。コース別にそれぞれ具体的な到達目標を4項目(1. 知識と理解 2. 技能 3. 態度と志向性 4. 統合的な学習経験と創造的思考力)に分けて示している。

臨床検査学科 臨床検査コース

臨床検査の知識と技術を身につけ、所定の単位を修得した学生に「短期大学士(保健衛生学)」を授与する。具体的な到達目標を4項目(1. 知識と理解 2. 技能 3. 態度と志向性 4. 統合的な学習経験と創造的思考力)に分けて示している。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:HPに公表している。)

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html>

(概要)カリキュラム・ポリシー(CP)

大学:学生が学習成果を挙げるために、教育目的に基づき、次に掲げる項目を重視して、体系的な教育課程の編成・実施に当たっている。

人間生活学科

各コースの専門的知識・技能の修得と資格取得を支援し、コミュニケーション能力、問題解決能力を向上できるように教育課程を編成している。コース別のCPも示している。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#departmentOfHumanLife2>

食物栄養学科

各コースで必要な基礎学力、専門知識・能力を身につけ、社会に貢献できる人材が育成できるように教育課程を編成している。コース別のCPも示している。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#foodAndNutritionDiscipline2>

臨床検査学科

臨床検査技師として必要な基礎学力と専門知識・能力・技能を修得できる教育課程を、臨床検査技師養成所指定規則に従って編成している。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#clinicalExaminationDepartment2>

入学者の受入れに関する方針(公表方法:HPに公表している。)

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html>

(概要)アドミッション・ポリシー(AP)

大学:入学後の修学に必要な基礎能力を有し、目的意識と向上心を有する人で、次に掲げる「本学が求める学生像」を理解し賛同する人。

人間生活学科

何事にも前向きな姿勢で取り組むことができ、仕事を通して社会に貢献したい人。コース別のAPも示している。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#departmentOfHumanLife3>

食物栄養学科

健康・栄養・食物に深い関心と意欲を持つ人。コース別のAPも示している。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#foodAndNutritionDiscipline3>

臨床検査学科

医療における臨床検査技師の役割を理解し、資格取得を目指している人。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/admissionpolicy/index.html#clinicalExaminationDepartment3>

②教育研究上の基本組織に関すること

(公表方法：HPに公表している。)

http://www.sanyo.ac.jp/themes/sanjyo/pdf/guidance/public_info/Organization_Chart13.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	—	—					—
人間生活学科	—	4人	2人	—	1人	—	7人
食物栄養学科	1人	3人	2人	2人	1人	3人	12人
臨床検査学科	1人	3人	2人	4人	—	—	10人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	65人	65人

各教員の有する学位及び業績
(教員データベース等)

公表方法：HPに公表している。

<http://www.sanyo.ac.jp/department/teacher/entry-66.html>

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

平成30年度は、計6回のFD研修会を行い、公務での欠席以外は全教員が参加した。

- ・第1回目は初任者を対象に、「FD・SDとは何か」について説明を行った。
 - ・第2回目は短期大学基準協会の実施する「2017（平成29）年度短大生調査」の集計結果をもとに本学の問題点についてグループ討議を行った。
 - ・第3回目は長崎短期大学学長から「高等教育の将来構想：地方の短期大学が生き延びるために」という講演を聞き、質疑応答を行った。
 - ・第4回目はシラバスの書き方について説明と質疑応答を行った。
 - ・第5回目は、「魅力ある教育現場にするためには」というテーマでグループ討議を行った。
 - ・第6回は「学生による授業アンケート」を通じた授業改善事例発表を3人の教員が発表し、発表を聞いて各教員がどのように授業に取り入れているかを後日報告することとした。その他、ポートフォリオの書き方やアクティブラーニングについて学外のワークショップに参加した教員から報告を聞いた。
- 以上の研修会を通して、全教員が、問題意識を共有し、教育改善に取り組んだ。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間生活学科	40人	26人	65%	90人	65人	72%	0人	0人
食物栄養学科	60人	47人	78%	140人	89人	63%	0人	0人
臨床検査学科	40人	47人	117%	120人	130人	108%	0人	0人
合計	140人	120人	85%	350人	284人	81%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間生活学科	38人 (100%)	1人 (2.6%)	36人 (94.8%)	1人 (2.6%)
食物栄養学科	58人 (100%)	0人 (0%)	55人 (94.8%)	3人 (5.2%)
臨床検査学科	38人 (100%)	0人 (0%)	34人 (89.5%)	4人 (10.5%)
合計	134人 (100%)	1人 (0.7%)	125人 (93.3%)	8人 (6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
3学科1専攻科共に就職希望者に対する就職率100%の中、学んだ知識や資格を活かして就職した「専門就職率」も高く、全体の専門就職率は85%である。また、就職先は医療、福祉関連機関が多く、1つの施設に長年、複数の卒業生が活躍していることから、毎年、定期採用頂く事例も多い。専門就職以外の学生に関しても本人の意向を重要と考え、柔軟に対応している。				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
人間生活学科	41人 (100%)	38人 (92.7%)	2人 (4.9%)	2人 (4.9%)	0人 (0%)
食物栄養学科	60人 (100%)	56人 (93.3%)	0人 (0%)	4人 (6.7%)	0人 (0%)
臨床検査学科	42人 (100%)	36人 (85.7%)	4人 (9.5%)	2人 (4.8%)	0人 (0%)
合計	143人 (100%)	130人 (90.9%)	6人 (4.2%)	8人 (5.6%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいて学科・コース別に教育課程(授業科目)を設定している。授業の方法には、講義、演習、実験・実習がある。パワーポイントを用いた講義、講義や実習中にアクティブラーニングの手法を取り入れる等、新教育課程で学び入学してくる学生に対応できるように準備している。教養科目、基礎専門科目、専門科目を順次学修できるようカリキュラムツリーを用いて各学期・年度の授業計画を設定し学生に説明、DPで示した到達目標が無理なく達成できるようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価の基準が定められており、成績評価が合格点の場合、成績査定会議にて単位の修得が認められる。成績評価の基準等は、学生便覧に記載している。入学時のオリエンテーションで学科別に教務委員が新入生に説明している。

卒業単位の認定は卒業査定会議で全学生(最終学年)の修得状況が報告され、卒業に必要な単位を修得したと認められた学生については、卒業が認定される。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	人間生活学科	62 単位	有	単位
	食物栄養学科	62 単位	有	単位
	臨床検査学科	114 単位	有	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法：公表していない。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		短期大学基準協会の「短大生調査」を実施、学科別に分析・検討後、結果をFDで報告している。 公表方法：公表していない。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学HPにて公表
<http://www.sanyo.ac.jp/campuslife/campusmap/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	コース名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項) ※その他内訳
人間生活学科	医療事務情報	620,000 円	270,000 円	297,000 円	・施設維持費 230,000 円 ・実験実習費 67,000 円
	オフィス情報	620,000 円	270,000 円	276,000 円	・施設維持費 230,000 円 ・実験実習費 46,000 円
	人間心理	620,000 円	270,000 円	276,000 円	・施設維持費 230,000 円 ・実験実習費 46,000 円
食物栄養学科	栄養管理	620,000 円	270,000 円	307,000 円	・施設維持費 230,000 円 ・実験実習費 77,000 円
	栄養調理	620,000 円	270,000 円	338,000 円	・施設維持費 230,000 円 ・実験実習費 108,000 円
臨床検査学科	臨床検査	620,000 円	270,000 円	445,000 円	・施設維持費 230,000 円 ・実験実習費 215,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

4月のオリエンテーション期間に、新入生、2、3年生に履修や資格の取得に関するガイダンスを行っている。また学科別にオリエンテーション・セミナーを行い、学修に対する動機付けを行っている。

学修上の悩み事や相談事については、主にチューター（教員）が対応しているが、各教科については担当教員のオフィスアワー、またオフィスアワー以外の時間を利用し対応している。学生の生活支援のための学生委員会があり、チューターと協力して学生生活全般に関わる指導を行っている。学生委員会は、各学科教員、事務職員、保健室看護師から構成されており、学生生活全般に関わる学生の諸問題に対する支援策や指導方針等を検討している。チューターは、履修指導、就職・進学相談のほか学生生活全般にわたる個人的な相談にのる役割を担っている。教員はオフィスアワーを設定し、さらに研究室にいる間は、随時学生の様々な質問や相談に応じている。

学生の自治組織として、学友会がある。学友会役員は、立候補制で学生大会の承認を受けて決定される。5月には学生部所属の教職員が企画する学友会研修会を開いており、学生部長から学友会役員としての心構えや役員に対する期待を述べ、組織として取り組むべき課題等について話し合う場も提供している。また、学友会主催の年間行事予定や事務手続きについての説明も行っている。こうした研修を通し、リーダーとしての自覚と責任感の涵養を図るなど、学生委員会は、学友会活動が円滑に遂行されるよう支援を行っている。

経済的に困窮する学生を支援するための奨学金制度として、日本学生支援機構によるもの、同窓会組織によるものなどがある。また本学独自の制度として、「山陽女子短期大学奨学生」制度がある。これは、学業・人物ともに優秀な人材の育成を支援する目的で設けられており、本学での学生生活に明確な目的意識を有している者に、学びやすい環境を提供するための制度である。

学生生活に関する学生の意見や要望は、チューター教員、事務職員がその都度直接聞き取り、必要に応じて関係する部署、担当者に報告するなど対応している。また、年度末に行う「学生生活に関する満足度調査」により、定量的な実態把握に努めている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学のサポート体制は主に次の3つの点に重点を置いて支援を行っている。

1点目は「オーダーメイドサポート」で、学生一人一人の個性と希望、ペースを大事に考え個別の相談を行い、計画的に学業と就活を両立させている。例年、全学科コースの就活生は、100%大学の就職サポートを利用している。計画的にサポートを利用する事で授業や試験、実習、国家試験等と並行しながら大学生生活も充実したものになるよう、学生の要望も重視している。

2点目は「トレーニング強化サポート」で、就職活動や社会人として必要なビジネススキルやコミュニケーションのトレーニングを個別対応で細かくサポートしている。最近の傾向としては、就職活動自体に大きな不安を持つ学生もおり、漠然とした不安を個別のトレーニングを通して早目に解決しておくことが出来、その後本格的な就職活動にも自信を持って臨んでいくことが出来ている。また、個別のトレーニングは内定後から就業前にかけて、内定先の企業と連携し、事前に就業後から必要になる業務を想定した内容で行っており、学生が卒業後円滑に企業での定着促進に繋がるとともに、早期離職の防止にもなっている。

1年以内の早期離職の取り組みとしては更に毎年12月に就業先アンケートを実施している。厚労省の発表している1年以内の短大の離職率は平均17.6%に対して本学は11.1%となっている。アンケートの対象として卒業後1年以内の卒業生に対して在職の有無、退職の場合

は退職の理由、また卒業生への業務評価も実施し、昨年度の実績として総合評価で期待した水準以上と回答した企業が90.6%となっており、個別のトレーニング等の細かい支援が結果に繋がっていると考えている。

3点目は「Uターンサポート」で、本学は山口県・島根県等を中心に県外出身者が多く、その約半数の学生はUターンを希望している。その希望を100%叶えたいという想いを強く持っており、早期から学生のヒヤリングに基づき個別の求人開拓に当たっている。その結果Uターン希望者の就職率は過去3年連続100%の実績となっている。

本学は主に専門職を目指す学生の割合が多く、また日頃から学科の教員とも連携を強化しながら就職支援をしており、栄養士・調理師・医療事務・診療情報管理士の専門就職率は昨年度平均85%、臨床検査技師は100%で、本年は昨年を上回る90%代の実績を出ることが予想されている。それぞれ入学時に抱いていた夢や目標が叶う様に、就職サポート体制は就活ルールの変更に影響されず、今後も今まで以上にきめ細やかで充実した内容が維持できるよう全力で取り組んで行く。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の健康管理については、健康診断、応急処置、健康相談等、保健室の看護師を中心に対応し、指導を行っている。定期健康診断は毎年4月に全学生を対象に実施している。診断結果は学生へ通知し、所見のある学生は保健室で健康相談を行い、必要に応じて再検査や医療機関受診を薦めている。応急処置は、学内での怪我や体調不良時に保健室担当の看護師が応急処置を行っている。

こころの悩みや問題を抱える学生への対応は、カウンセリングルームで行っており、カウンセラー2名（専任教員1名は臨床心理士資格を有する）が当たっている。利用は予約制になっており、プライバシーが保たれるように配慮している。また、4月の定期健康診断時に「こころの健康チェック」としてUPI学生精神健康調査を新入生対象に実施して、希望者ならびに精神面での不調が疑われる学生に対する面接を行い、チューターや担任教員との情報交換も行っている。

障がいや疾患のため修学上の配慮を要する学生に対しては、各学科の障がい学生支援委員が窓口となって、学生と話し合った上で必要な合理的配慮、各部署との連絡・調整等を行っている。支援の具体例を挙げると、座席指定の配慮や、大きい文字で印刷した資料の提供、定期試験における別室受験、授業担当者への説明と配慮の要請等である。学生の心身に何らかの障がいがあっても、学びと成長の機会を保障できるよう取組を進めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに既報の紀要を掲載している。

<http://www.sanyo.ac.jp/guidance/Library/index.html#theBulletinofCollege>